

# 丹波市総合計画 令和4年度 施策評価シート

まちづくりの目標	4	美しい自然と環境を大切にす源流のまち
施策目標	2	【低炭素社会】地球環境にやさしい社会と暮らしを育てよう
施策の展開	① ②	自然エネルギーの利用促進 低炭素社会の実現

施策担当課	環境課
関係課	環境課

## 1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観との調和を図りながら、森林資源などの自然エネルギー源を活用し、自立・分散型エネルギーの普及と地産地消が進んでいます。</li> <li>・本市の豊かな自然から得られたエネルギーが日常生活や産業に活用され、低炭素社会が実現しています。</li> </ul>
----------	---

## 2 成果指標・コストの推移

	単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果指標	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	
		実績	17.2	21.8	24.6	22.3			市民アンケート結果より
	人	目標	100	175	175	175	175	175	
		実績	146	174	187	213			
件	目標	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200		
	実績	3,068	3,231	3,364	3,495				
%	目標	—	—	53.0	56.0	59.0	63.0		
	実績	—	49.3	52.1	53.6			市民アンケート結果より	
コスト	千円	実績	24,050	24,245	19,355	9,288	—	—	
	千円	実績	16,175	17,375	14,293	11,885	—	—	
	千円	実績	40,225	41,620	33,648	21,173	—	—	
	千円	実績	33,213	35,382	28,695	15,578	—	—	

## 3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年に国連が提唱した「持続可能な開発目標 (SDGs)」は、気候変動や地球温暖化対策だけではなく幅広い包括的な目標を定め、世界各国が共通して取り組むべきこととして受け入れられている。</li> <li>・平成30年に策定された国の第五次環境基本計画では、「地域循環共生圏」を提唱。地域資源を持続可能な形で活用するため、各地域が自立・分散型の社会を形成し、地域資源等を補完し支え合う「地域循環共生圏」の創造を目指している。</li> <li>・令和2年10月に菅内閣総理大臣が、所信表明において「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」と宣言し、環境省では、地方自治体のゼロカーボンシティ宣言とその具体的な取組を呼び掛け、制度的に後押しする体制を整えている。</li> </ul>
市民ニーズの動向	令和3年度、第2次環境基本計画改定の際に実施した市民アンケートでは、地球温暖化問題について、「よく知っている」、「聞いたことがある」を合わせると、96.3%に達している。具体的な取り組みとしては、「節電」(66.8%)、「クールビズ・ウォームビズ」(27.0%)が大半を占めている。次いで、「太陽光や太陽熱の設備導入」(15.3%)、「自動車の相乗り、公共交通機関の利用」(4.6%)となっている。

## 4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年度市民意識アンケートの結果によると、自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合は、前年度比で2.3%減少し22.3%となっている。</li> <li>・薪(木質バイオマスエネルギー)の利用促進については、広報等により住宅の新築やリフォームの際に薪ストーブ・薪ボイラー設置補助金の活用を呼びかけているが、薪ストーブ本体の価格や設置に要する費用が高価であるため、伸び悩んでいる。</li> <li>・丹波市の「木の駅プロジェクト」に参加された新規兼業農林家数は、年々増加している。森林環境の保全と木質バイオマスの活用に関心が高まってきている。</li> </ul>
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度から10年間の環境の保全と創造に関する施策を総合的かつ計画的に推進するための第2次環境基本計画の策定を行った。令和3年度には、同計画の中間年を迎え、自然環境や社会経済情勢の変化に合わせて数値目標等を見直すため改定した。</li> <li>・木質バイオマスエネルギーの活用に向け、丹波市木の駅プロジェクトの取組を支援して活動の輪が広がるように連携した。地産地消による脱炭素に向けた循環型社会の実現につなげるため、薪ストーブ・薪ボイラーの導入促進を図った。</li> <li>・令和4年12月27日に「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」を行った。</li> </ul>
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	市民、事業所、市が一体となり、それぞれの立場から参画と協働の取組を行うことを基本として施策を進める。

## 5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画に基づき事業を展開していく。</li> <li>・「水上回廊」や市内の珍しい動植物がいることを広報等とおして知らせていくことで、「生物多様性」を市民の方に知っていただき、自然の動植物の保全に対する関心を高める。</li> <li>・自然エネルギーについては、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進め、林地残材を加工した薪を使い、化石燃料からの転換を図ることで、地産地消による循環型社会を実現するために、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を増やす取組を進める。</li> <li>・丹波市ゼロカーボンシティの実現に向け、令和5年度に再生可能エネルギー導入可能性調査を実施し、令和6年度に丹波市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定する。</li> </ul>
-------------------------	--



# 丹波市総合計画 令和 4 年度事務事業評価 / 令和 5 年度実施計画

事務事業名	環境施策推進事業					
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間			平成 16 ~ 無期	年度
	所属長 田口 健吾	担当 足立 幸一	担当 村上 寛幸			

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【4】美しい自然と環境を大切にす源流のまち
		施策目標	2【低炭素社会】地球環境にやさしい社会と暮らしを育てよう
	創生総合戦略	基本目標	【4】好循環で元気なまちをつくる
		施策	【4-2】元気な地域が元気なまちをつくる
	まちづくりビジョン	取組項目	(8)地域に根ざした生業
根拠法令・個別計画等 丹波市環境基本条例、第2次丹波市環境基本計画、丹波市地域新エネルギービジョン			

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	市民、自治会、事業所	
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の認識が広がり、自然環境を保全する活動が活発になり、豊かな生態系が保全されている。</li> <li>・地球温暖化防止の取組があらゆる場面で進み、脱炭素社会が実現している。</li> <li>・太陽光等の自然エネルギーの活用により、自立・分散型エネルギーの普及が進んでいる。</li> <li>・豊かな自然(木質バイオマス等)がエネルギー(燃料)として活用され、地産地消の循環型社会が実現している。</li> </ul>	
	概要 (具体的手段・全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市環境審議会や環境施策推進会議の開催</li> <li>・環境基本計画に基づく施策の推進、環境報告書の作成と公表</li> <li>・市内に棲む生き物の把握、「氷上回廊」ホームページの運用による生物多様性保全の発信</li> <li>・地球温暖化防止に向けたCool Choice(クールチョイス)運動の啓発</li> <li>・木質バイオマスエネルギーの利用促進のために活動しているグループへの活動支援</li> <li>・薪ストーブ・薪ボイラー等の普及推進(薪ストーブ・薪ボイラー設置補助金)</li> <li>・実施主体:直接実施、業務委託 委託先:(株)神戸新聞事業社中兵庫支社</li> </ul>	
	令和4年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2次環境基本計画の進行管理</li> <li>・「氷上回廊」ホームページ管理・運用</li> <li>・地域おこし協力隊制度を活用した生物多様性の啓発</li> <li>・薪ストーブ・薪ボイラー設置補助</li> <li>・EV車急速充電器の維持・管理</li> </ul>	令和5年度の 事業概略

コスト(単位:千円) (評価年度は実績、計画年度は予算)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
歳出	総事業費 A+B	40,225	41,620	33,648	21,173	35,189	30,489	
	直接事業費 A	16,175	17,375	14,293	11,885	25,901	21,201	
	総人件費計*(E+H) B	24,050	24,245	19,355	9,288	9,288	9,288	
	職員従事者数(人・年) C	3.25	3.25	2.54	1.25	1.25	1.25	
	(平均人件費) D	7,400	7,460	7,620	7,430	7,430	7,430	
	人件費 E=C×D	24,050	24,245	19,355	9,288	9,288	9,288	
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	(平均人件費) G	2,000	2,360	2,360	2,530	2,530	2,530	
人件費 H=F×G	0	0	0	0	0	0		
歳入	特定財源	7,012	6,238	4,953	5,595	5,628	3,000	
	国・県支出金	0	0	0	0	0	0	
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0	
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0	
	その他特財	7,012	6,238	4,953	5,595	5,628	3,000	
一般財源	33,213	35,382	28,695	15,578	29,561	27,489		

実施 (DO)	指標名	単位	目標		実績		備考			
			令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
成果	自然の動物や植物などの保全に関心がある市民の割合	%	目標	-	-	53.0	56.0	59.0	63.0	令和4年度市民意識アンケート結果より
			実績	-	49.3	52.1	53.6			令和4年12月時点
成果	市内太陽光発電の設置件数(累計)	件	目標	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	4,200	
			実績	3,068	3,231	3,364	3,495			
成果	自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合	%	目標	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	令和4年度市民意識アンケート結果より
			実績	17.2	21.8	24.6	22.3			
成果	木の駅プロジェクト参加者数	件	目標	100	175	175	175	175	175	
			実績	146	174	187	213			
コスト			目標							
			実績							
コスト			目標							
			実績							

指標の推移等の背景・分析

・青垣いきものふれあいの里や氷上回廊水分水れフィールドミュージアムで定期的に企画展・事業が行われていること等から、自然の動植物などの保全に関心がある市民の割合は増加している。

・自然エネルギーの活用が進んでいると思う市民の割合について、薪ストーブ設置件数や太陽光発電の設置件数が増加しているものの、20%台前半で推移している。自然エネルギー(木質バイオマス等)に関心がある市民の割合や薪ストーブの煙突などが視認しにくいことが影響していると考えられる。

・木の駅プロジェクトの参加者数について、同実行委員会の活動などにより、増加につながったと思われる。

事務事業名	環境施策推進事業			
事業担当課	生活環境部 環境課	事業期間	平成 16 ~ 無期	年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	市内における豊かな自然環境の保全、地球温暖化防止活動の推進、新エネルギーの導入や省エネルギーの啓発等を行い、市民が住みやすい環境とより良い生活環境を守り、持続可能な地域社会を創造していくため必要である。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	B	市民アンケートにおいて、生物多様性の保全に関する市民の割合は増加しているが、目標には届いていない。また、薪ストーブ設置件数や太陽光発電の設置件数が増加しているものの、自然エネルギーの活用について、実感している市民の割合が増えている。継続的な生物多様性や自然エネルギーに関する周知啓発が必要である。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	A	薪ストーブ・薪ボイラーの設置補助については、要綱を定め補助率、限度額を設定したうえで補助している。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)																														
		<p>・生物多様性や自然環境の保全について、市内関係部署や保全団体と連携を図りながら実施している。氷上回廊に代表される生物多様性や豊かな自然環境などを地域の資源として、保全・活用を進めるとともに、その活動等を周知していく必要がある。</p> <p>・自然エネルギーの推進について、特に木質バイオマスエネルギーの利活用を進めるため、薪ストーブ・薪ボイラーの導入を支援し、地産地消による循環型社会の実現を目指している。薪ストーブ・薪ボイラーの設置費用が高額になる傾向があり、設置補助を行っているが、設置件数の急激な増加は見込めない。また、自然エネルギーのなかでも木質バイオマスエネルギーに対する認知度の向上が課題である。</p> <p>・令和4年12月27日に「丹波市ゼロカーボンシティ宣言」を行った。脱炭素社会の実現を目指し、自然エネルギーの利活用や省エネ活動等の周知・啓発等の取組を行う必要がある。</p>																													
	今後の方向性・改善策等	成果・コストの方向性																													
	<p>・環境の保全と創造に関する施策を総合的、かつ計画的に推進するため、第2次環境基本計画に基づき事業を展開していく。</p> <p>・生物多様性の保全について、引き続き、関係部署や保全団体との連携を図りながら、市内の自然環境や氷上回廊の周知啓発に取り組む。</p> <p>・自然エネルギーの推進については、引き続き、木質バイオマスエネルギーの利活用を進めるため、薪ストーブ・薪ボイラー導入促進に取り組む。また、木質バイオマスエネルギー等の自然エネルギーに対する認知度の向上に取り組む。</p> <p>・ゼロカーボンシティの実現に向け、令和5年度に再生可能エネルギー導入可能性調査を実施し、令和6年度に地球温暖化対策実行計画(区域施策編)を策定する。</p>	成果の方向性	皆減	縮小	現状維持	拡大																									
		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>皆減</td> <td>縮小</td> <td>現状維持</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>拡充</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>✓</td> </tr> <tr> <td>現状維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>縮小</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>休廃止</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		皆減	縮小	現状維持	拡大	拡充				✓	現状維持					縮小					休廃止					コスト投入の方向性			
	皆減	縮小	現状維持	拡大																											
拡充				✓																											
現状維持																															
縮小																															
休廃止																															

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	環境施策推進事業	2,493	7,050	6,374	7,669	7,669	
2	新・省エネルギー普及事業	14,882	7,243	5,511	18,232	13,532	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
合計		17,375	14,293	11,885	25,901	21,201	

●外部評価 【 】年度実施

指摘事項など	対応状況